

問題の未然防止活動を推進させよう

DR/DRBFM実践研修

開催日時	2025年 5月20日(火)	大阪会場	オンライン選択可
	2025年 7月30日(水)	大阪会場	
	2026年 2月13日(金)	オンライン	

各回とも 10:00～17:00

対 象 設計・品質管理・品質保証・生産技術部門の方

講 師 中山 聡史 氏
(株)A&Mコンサルト 代表取締役社長

参加料(税込) 法人会員：55,000円/1名
会 員 外：66,000円/1名

※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。
※昼食の提供はございません。(各自でご用意ください。)
※法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにてご確認ください。
<https://www.jma.or.jp/membership/>
※お申込みページ内参加申込規定を確認・同意のうえお申込みください。

ね ら い

生産管理部門、製造部門の革新は進んでいますが、QCDの根幹を決める設計部門の革新・改善がなかなか進まない、とお悩みの方も多いのではないのでしょうか。

特に品質の部分については、消費者ニーズの多様化や、要求品質の高まりなどにより、多くの設計起因の問題が発生しています。

これらは、設計段階で問題の予測が出来ていないことが問題なのです。

本セミナーでは、ものづくりを始める前に問題を把握し、未然防止ができるよう、DRやDRBFMの具体的な実践手法について学んでいただきます。設計部門の改革・改善を推進したい方、フロントローディング開発を実現させたい方におすすめです。

このような課題をお持ちではないですか？

- ☑ 組立性、加工性を考慮した設計がされておらず、製造現場で組付け修正や手戻りが発生する
- ☑ 市場不具合がどうしても再発してしまう
- ☑ 過去に発生した問題の見える化ができていない
- ☑ DRの場が、担当者の「つるしあげ」になっていて本来の目的を果たせていない
- ☑ 取組みが形骸化してしまっている

参加者の声

- 他の方々も同じような課題を抱えていることが分かった。あるべき姿が理解できたので、今後の業務に活かしていきたいと思う。
- 今までに進め方に誤りがあったことを認識できてよかった。実践するためのポイントをわかりやすく説明され、参考になりました。DRのあり方に悩みを持つ方に受講を薦めたい。
- DR・DRBFMの実際の正しい使用イメージを持つことができた。分かりやすく興味を持ちやすい説明でした。
- 「やめる基準を決める」という言葉が心に響いた。仕組みも大切なポイントと実感した。

■ プログラム

10:00～17:00 [昼食] 12:00～13:00

1 製造現場からみた設計現場の課題や悩み

- (1) どのような課題があるのか (2) 設計課題の事例紹介
- (3) バックローディングが設計に与える影響
- (4) ノウハウが会社に蓄積されていない

2 設計現場、製造現場の課題について考える

演習

3 設計プロセスのあるべき姿

- (1) フロントローディング (2) コンカレントエンジニアリング
- (3) 設計プロセスの事例紹介

4 設計品質向上策

- (1) 「品質企画」と品質管理の目的を理解する
- (2) 品質を保証する考え方の歴史の変遷
- (3) 品質企画があると手戻りがなくなる
- (4) 品質企画のつくり込みとは
- (5) 品質企画のための7つのツール

5 DR(Design Review)実践

- (1) DRとは (2) DRの課題紹介
- (3) DRのあるべき姿 (4) DRの実施タイミング
- (5) DRでの検討内容
- (6) あるべきDRと現状のGAPを確認

演習

6 DRBFM(Design Review Based on Failure Mode)実践

- (1) DRBFMの定義
- (2) DRBFMの誕生の経緯
- (3) DRBFMの構成
- (4) DRBFMの適切な検討時期
- (5) DRBFMの内容

7 ～DRBFMを実践しよう～

演習

実際の製品を用いた演習により、うまくいくための仕組みとコツをつかんでいただけます。

※プログラム変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

